

十七日、被行除目太政大臣師長已下、至于檢非違使信盛卅九人解官、多是院中祇候之輩也、此中大相國可追却關外之由被宣下、十八日、前關白左遷太宰權帥遣大夫尉康綱令追之、即以出門、隨身厚景侍四五人在其、雜人滿途中見之、各叫喚、前關白於路頭出家云々、前相撲守業房配流伊豆國、但逐電不逢追使、前大納言資賢卿并雅賢資時、信賢可追却京中之由被仰下也、廿日、太上法皇白河渡御鳥羽殿、非尋常儀、入道大相國押申行之成範脩範等卿、法印靜賢女房兩三之外不參入、閉門戶不通人、武士奉守護之、

〔平家物語〕小がうの事

中宮德平の御方より、こがうと申女ばうを參らせらる、そも此女ばうと申は、櫻町の中なごん玄げのりの卿のむすめ、きん中一のび人ならびなきことの上手にてぞましくける、れいせいの大納言たかふさ卿、いまだ少將なりし時、見そめたりし女ばうなり、はじめは歌をよみ文をばつくされけれ共、玉づさのかずのみつもりて、なびくけしきもなかりしが、さすがなさけによわる心にあつひになびき給ひけり、されども今は君高倉へめされ參らせて、せんかたもなくなし、くて、あかぬわかれの涙にや、袖まはたれてほしあへず、少將略今は此よにてあひみん事もかたければ、いきてゐて、どにかくに人をこひしと思はんより、たゞ玄なんどのみぞねがはれける、入道相國清盛此よしをつたへ聞給ひて、中宮と申も御むすめ、冷泉の少將も又むこなり、小がうの殿に二人のむこをとられては、よの中よかるまじ、いかにもして小がうの殿をめし出して失はんとぞ宣ひける、小がう此よしを聞給ひて、我身のうへはとにもかくにもなりなん、君の御ため御心ぐるしと思はれければ、ある夜内裏をばまぎれ出て、ゆくへもまらずぞうせられける、主上御なげきなのめならず、ひるはよるのおとよののみいらせ給ひて、御なみだにまづませおはします、よるは南殿に出御なりて、月のひかりを御らんとて、ぞなぐさせましくける、入道相